

## よりよい生活を目指して自ら主体的に関わろうとする態度や意欲を育む家庭科学習

### — 生活の中の課題を解決するための多面的な見方・考え方の育成を通して —

#### 1 題材のねらい

自分の生活をふり返り、生活の課題に応じた手作り整頓グッズを作ることで、整理整頓の仕方の工夫を見いだしたり、主体的に身の回りを快適に整えたりしようとする態度を育む。

#### 2 授業の構想

##### (1) 子どものとらえと資質・能力について

以下に示すのは、「季節に合わせた快適な過ごし方を考えよう」の題材の中で、夏の過ごし方について、よしずやすだれ、風鈴などの効果を実際に教室で体感したり、詳しく調べたりする中で、実生活にどのように活かしていくか考えた授業後のふりかえりである。

これまで暑くなったらエアコンやせん風機にたよっていたけど、すだれでもかなりすずしくなるし、風りんは、体感温度を2～3度下げてすずしく感じることができることが分かりました。自分の家はマンションで、グリーンカーテンは大変だから、風りんはそんなに高くないし、自分にもできそうなので、やってみたいと思いました。  
(児童A)

本学校園技術・家庭科部では、子どもたち一人一人がよりよい生活を目指して工夫し創造する姿を目指して、「課題を多面的にとらえ、身に付けた知識や技能を活用する力」を身に付けさせたい資質・能力の中心として捉え、授業実践をしてきた。児童Aのふりかえりでは、夏の快適な過ごし方についてエアコンなどの冷房機器の活用だけでなく、すだれや風鈴などでも電気代を節約しながら暑さがしのげることなど、多面的なとらえ方ができている。このように、学習したことを活かし、自分の家に風鈴を付けてみようといったような、自らが主体となって実生活に生かしていこうとする姿を目指していきたいと考えた。

本題材では、「住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること」について、特に整理整頓について取り上げ、意識や実践の幅を広げたいと考えた。子どもたちにとって、整理整頓は生活の中の身近な課題であり、且つ、家庭生活に主体的に関わる手段として有効である。本題材では自分の生活の課題に応じた整理整頓グッズを製作する。身の回りには、文房具や書類、小物などを整頓するための安価で便利な物もたくさんあるが、形や大きさ、デザインなど自分の目的と全てが合致するものと出会うのは意外と困難である。グッズの目的や使う場所などに応じて形や大きさ、色や柄など工夫することを通して、整理整頓に対する意識や、日常生活での実践の幅を広げていきたい。さらには、製作の過程において、目的に応じたグッズを製作するための素材と丈夫さの関係について気付くことにより、生活をよりよくするための多面的な視点に触れることができる。この気付きは、今後、既製品を購入する際にも、自分の目的により合致した物を選ぶための大切な視点である。身近な生活の中で整理整頓に役立つ物を作ることは、調理や裁縫と同様に、実生活につながる製作活動の一つになるのではないかと考えた。

## (2) 技術・家庭科で目指す資質・能力を育むために

### ○主体的な追求をするための土台作り

～生活を見つめ直し、日常生活の中から「課題」「願い」「問い」を見いだす～

まずは、日々の自分自身の生活の中から、整理整頓に対する「課題」をしっかりと引き出す。具体的にどの場面でどのような物に対して整理整頓の課題があるのか、どのようなグッズがあると生活がより快適になるかなど、個人、小グループ、学級全体で考える時間を設定しながら明らかにする。一人一人の「課題」が明確になることで、「～のために〇〇を作りたい！」という「願い」が生まれ、どうしたら便利なグッズが作れるか「問い」をもつことができる。整理整頓に対する追求の土台を作った。

### ○多面的な見方・考え方の視点を明確にする

グッズの製作では、まず、その形や大きさについて考えることが第一の課題となる。実際に整理整頓したい物を持って来たり、その大きさを測ってきたりすること、実際に使う場所や場面も考慮しながら考えたり、試し作りをしたりしながら考えた。完成に向けた多面的な視点として、素材と丈夫さの関係に着目した。使用に耐えうる丈夫さがあるかどうかは、物の良し悪しを判断するための大切な要素となり、使いやすさにもつながる。主な素材として厚さの異なる紙を用意する。目的に合わせて丈夫さを考慮しながら紙の厚さを選ぶ。また、紙の厚さと加工のしやすさの関係や、接着部分に工夫することで丈夫さが変わることなどの気付きを整理しながら、製作につなげた。

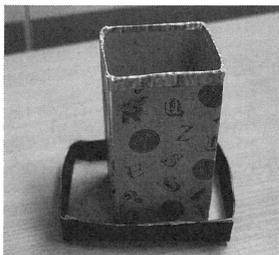
### ○教師のはたらきかけ

本題材を展開するにあたっては、子どもたちの問いや考え、多面的な視点を広げるための「提案する」はたらきかけや、深めるための「掘り下げる」はたらきかけを適宜行っていく。特に、子どもたちの目的に応じたグッズになりそうかどうかという点について、形や大きさはそれでよいか、実際の製作をイメージして、丈夫に作るためには紙の厚さや接着部分についてどうすればよいかなど、問い返ししながら子どもの思考を掘り下げ、追求への手立てとした。

## 3 展開計画（全6時間）

次	時	主な学習内容	◇願う子どもの姿
1	1	○自分の生活の中の整理整頓の課題を見つける。	◇自らの生活を振り返り、整理整頓の課題を積極的に見いだそうとする姿。
	2	○個々の課題に応じた整理整頓グッズの計画を立てる。	◇自分の課題に応じたグッズの製作計画を立てる姿。
2	3	○グッズの試し作りをする。	◇製作のポイントの形・大きさ・丈夫さを見いだしながら試し作りをする姿。
	4	○試し作りを通して気付いたことをまとめる。	◇試し作りから、形や大きさ、丈夫さについて気付いたことや課題を出し合い製作につなげようとする姿。
	5・6 課外	○前時までに気付いたことを活かして、製作をする。 ○実際に使ってみた感想をまとめる。	◇グッズを製作したり、実際に用いたりした感想をまとめることで、成果や課題を見いだし、学習したことをこれからの生活に役立てていこうとする姿。

## 4 授業の実際



(図1 児童Bの作品)

次に示すのは、児童Bの本題材終了後のふりかえりと、製作した整頓グッズ(図1)である。

整頓グッズを作って、家に持って帰ったら家族みんながそこにしっかり整頓してくれるようになりました。

縦に長い方はえんぴつやペン、平らな方はゴムなどを入れるように工夫して作ったので使いやすかったです。(児童B)

子どもたちは、自らの生活の中から整理整頓に対する課題を見だし、目的に応じたグッズを製作した。形や大きさ、見た目はもちろん、製作に用いる紙の丈夫さや加工のしやすさなど考えることで、自らの生活をよりよくするための多面的な見方や考え方を育むことができた。目的に応じて工夫しながら作ること、家に帰って実際に使って便利さを実感したり、家族に使ってもらって家庭生活に役立った経験を積んだりすることで、主体的に生活に関わろうとする態度や意欲を高めることができた。このように、題材のねらいに迫り、育みたい資質・能力を高めることができたポイントをまとめていく。

### (1) 日々の生活の中から整理整頓に対する「課題」を見出す

#### ①身近な事象から、自分の生活を振り返る

整理整頓に対する必要性を改めて実感できるように、本題材の導入として普段よく目にする教室(図2)と職員室(図3)の教師の机を取り上げた。整理する前のこれらの教師の机から、現状を捉え、課題を見だし、整理整頓のポイントをまとめた。



(図2 教師の教室の机)

#### 【現状】

- ・いろいろな書類が端に積んであって置く場所がない。
- ・文房具がいろいろなところに散らばっている。
- ・紙が折れている。
- ・文房具以外にも鍵なども置いてある。



(図3 教師の職員室の机)

#### 【課題】

- ・どれがどれか分からない。
- ・良い整理の方法ではなく、紙が折れたり、破れたり、なくなったりしそう。
- ・取りづらい。

#### 【整理整頓のポイント】

- 種類ごとに分ける
- 取りやすさを考える
- しっかり保存できるようにする

#### ②自分の生活にぴったりの整頓グッズのイメージを膨らませる

自分の生活に対する課題が見いだせたところで、次に、整頓グッズの製作に向けて、自分の生活にぴったりとはどのような物か、さらにイメージを膨らむように、既製品の箱を使っておもちゃを片付けた以下の写真を示した(図4・図5・図6)。既製品では、自分の目的にぴったり合う形や大きさ、デザインの物が少ないことが多々あることを実際に示し、子どもたちと共

有することで、整頓グッズを自分の目的に応じて作っていく良さを感じたり、意欲を高めたりすることができた。



(図4 整理する前のおもちゃ)



(図5 小さい箱に入れた場合)



(図6 大きい箱にいれた場合)

- ・学習を通して、自分の机はとてもきたないし、整とんできていないので、グッズで解消できるといいです。 (児童C)
- ・今日、整とんグッズのイメージを書いてみて、私の家はリモコンがいろいろなところにあるので、その箱を作りたいと思いました。 (児童D)
- ・確かに自分の家もきれいなところもあるけど、ぐちゃぐちゃしているところもあるので、少しでも整とんできるとすっきりすると思います。特に勉強机は集中できるようになると思います。 (児童E)

上記のふりかえりにもあるように、自分の身の回りの課題を一人一人がしっかりともち、課題を解決するための整頓グッズのイメージを高めることができた。

## (2) 多面的な見方・考え方で整頓グッズよりよいものへ

### ① 試し作りを通して、更にイメージを高める (図7)



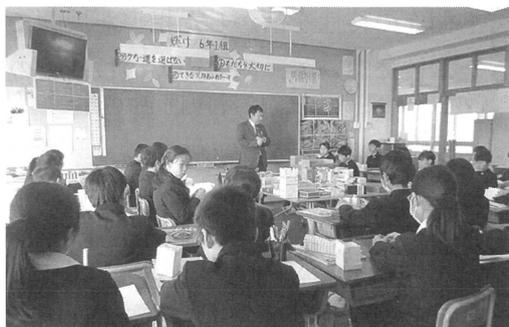
(図7 活動の様子)

今日は試作品を作ってみて、丈夫さがいまいちで、丈夫にするためには、のりしろが大切で、そのようなことに気づけたから、本番のイメージがもてました (児童F)

110Kの上質紙を用いて、試し作りを行った。実際に自分が作る整頓グッズの形や大きさを確かめることと、製作に向けた課題を見いだすことを目的とした。

試作品を作ることで、どのような形や大きさにすると、自分の目的により近づくかイメージを高めることができた。また、試作品のため、紙も薄く、丈夫さに欠ける部分があったり、接合部分もテープで軽くとめるだけだったりするものも多く、丈夫にするためにはどうすればよいかという課題が見いだされた。この視点を、整頓グッズ製作の多面的な視点として取り上げ、学びを深めていった。

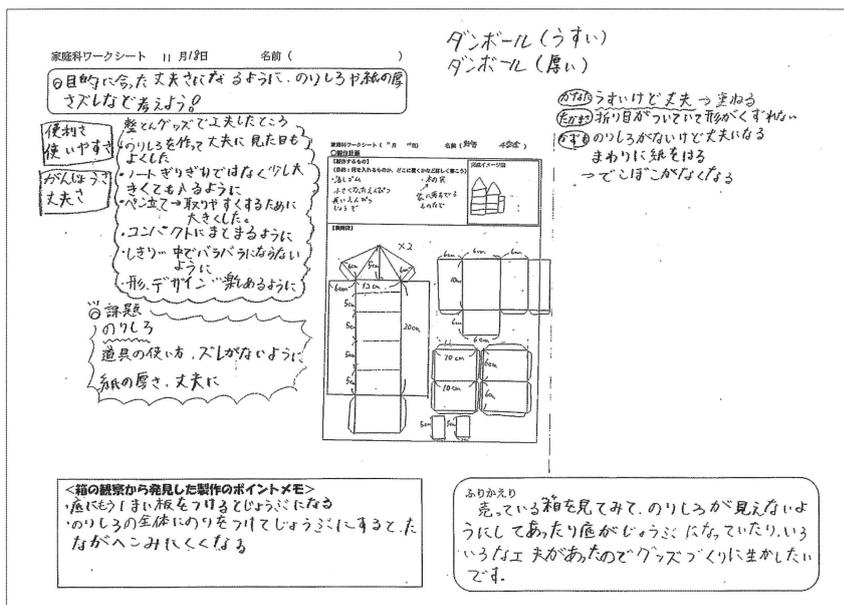
### ② 身の回りにある箱から丈夫さを考える (図8)



(図8 授業の様子)

試作品を作る中で見いだされた課題を解決するために、身の回りにある箱を観察し、より自分たちの目的に応じたグッズにするためにどのようにすればよいか探るための学習を仕組んだ。

身の回りには、何を入れるための、どのような箱があるか。また、その目的に合わせた箱にするためには、どのような工夫や作り方がされているのかじっくり観察し、ヒントを見つけた。



(図9 児童Gのワークシート)

箱の観察から発見した製作のポイントとして、児童Gは「底にもう一枚板をつけると丈夫になる」「のりしろ全体にのりを付けて丈夫にすること」の2点を挙げた(図9)。厚さやのりしろについて、観察したことで具体的なイメージをもつことができ、本番の製作に活かされていった。

## 5 おわりに

本題材を展開するにあたって、生活を見つめ直し、日常生活の中から整理整頓における「課題」「願い」「問い」を見いだすことで、主体的な追求の土台を築いた。そうした中で、課題を解決すべく、試し作りをしたり、観察をしたりすることは、まさに問題解決的な学習である。計画・実践・評価・改善のスパイラルは、題材構成上のものだけではなく、実生活において、自らの生活をよりよくしようとする営みに他ならない。また、実生活をよりよくするために必要な、家庭科の学習を通して身に付ける知識及び技能の習得についても、問題解決的に習得することで、教え与えるものではなく、子どもたちが主体的に獲得しようとするものになる。そうすることで、知識や技能は広がり、深まり、さらに実生活へ還元されていくと考える。今後も授業を構想する上で大切にしていきたい。

本題材は、整理整頓の学習の中に製作活動を位置づけた。住まうことの学習についての課題の一つに、子どもたちが学んだことを調理や裁縫のように実生活に還元することが難しい点がある。よって、本題材の実践は、整頓グッズの製作を通して、住まい方についても、自ら働きかけることができる点では意義のある学習であると考えられる。また、製作の過程では、布を用いた製作活動の際にポイントになる、ゆとりやぬいしろの必要性についても、ぬいしろをのりしろに置き換え考えることができる。布を用いた製作活動も大変重要な学習であることは言うまでもないが、小学校家庭科において、指導する側にとっては度々難しさも聞かれる。よって、指導内容の幅が広がることで教師にとっても個々の特性を活かした指導が展開できる可能性もある。技術・家庭科部として取り組んできた本校において、内容面での技術との接続も考えることができた。

2年間の小学校家庭科のカリキュラムの中でどのように位置づけるか、また、中学校・高等学校での家庭科の学習との関わりなどまだまだ課題はあるが、様々な可能性のある題材として魅力のある実践となった。今後も授業開発・カリキュラム開発と意欲的に取り組んでいきたい。

(文責 竹吉 昭人)